

私とディベートー過去、現在、そして未来ー

北海道大学大学院修士一年 津田高明

初めまして。北海道在住の甲子園OB、津田高明というものです。現在北海道大学大学院農学研究科で森林の取り扱いの仕方やその計画方法を研究しています。

本企画は「OBOGたちは今」ということで、私とディベートとの関わりを過去から現在、そして今後への展望を書こうと思います。

まずは過去です。ディベートに初めて触れたのは高校時代、国語の授業でした。当時はなかなか自分のいいたいことがいえずに苦戦しましたが、工夫のしどころも多く、何か面白いものがあるなと思いました。ディベート甲子園には高校3年のとき、第4回大会「日本は、陪審員制度を導入すべきである。是か非か」という高校論題に立命館大学慶祥高校から出場しました。地方大会は準優勝でしたが、全国では一勝も出来ませんでした。楽しくもあり、またほろ苦くもある思いをしたのを覚えています。

その後北海道大学に進学しました。そしてその入学のとき、たまたま高校時代にディベートを指導していただいた方が、ここで「北大ディベートクラブ」という日本語ディベートのサークルを開いていると聞き、それを見に行っただのが大学でディベートと関わるきっかけとなりました。

サークル自体はメンバー数がぎりぎり二桁いるくらいの小さなサークルでしたが、そこでのディベートは、高校時代で経験したものより深く、面白いものでした。政策評価とはどのような基準でなされるのか、どのような議論展開をすると勝ちやすくなるのか、有効なプレゼン方法はどのようなものか、さらには結局ディベートとは何を争う競技なのかなど、サークル活動を通じて競技ディベートの奥深さに気づくことが出来たと思います。特に、ディベートとは「説得力」を争う競技だと分かったことは、私がディベートをより理解する上で非常に大きな一歩になりました。

また一般が参加できる大会の開催や、ディベート甲子園に参加する中高生の指導など、ディベートの底辺を拡大する活動もサークル活動を通じてやりました。サークルを運営する上では様々なことがありましたが、大学時代でのサークル活動が、私が本当にディベートにはまるきっかけになったと思っています。

現在は身分も大学院生となり、こうした経験から培った理論や方法を後輩に指導する形でサークル活動に参加しています。また自分でも、実践を踏まえた上でのディベートの理論的な研究をやっています。今後、北海道に在住している方々と共にディベート理論の研究会を開こうという構想も考えています。

最後に今後の自分のディベートへの関わり方を展望しようと思います。これには、今年ジャッジとして初めて参加したディベート甲子園全国大会での経験が非常に大きなものになったと思っています。ここで多くの方々と交流できたことは、今後ディベートを競技面だけでなく、教育面や実社会での実践の面などから多角的に考える意味で非常に有意義な経験となりました。さらに、その大会期間中にOBOG会の立ち上げ会に参加できたことも私にとって有意義でした。今後、この会で何が出来るかを具体化していく必要があると思いますが、こうした「一歩目」となる行動が、ディベートの市民権を獲得する意味で大事になってくると思います。

以上のように、今後私のディベート活動は、サークルを中心に広がっていくと思います。私が高校時代にディベートを知ってもう8年経ちます。その中で選手として、また指導者としての経験やその中で得た知見もそれなりにたまってきていると思います。まだまだ未熟ではありますが、今後はそれを私なりの方向性で社会に提示していきたいと思っています。今後のディベート界の発展を、これを読んでいる皆様とともに進めていけることを願っています。